

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175100288		
法人名	有限会社 なごみ		
事業所名	ライフインなごみ		
所在地	紋別市落石町3丁目45番9号		
自己評価作成日	令和4年1月18日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設17年目の現在は、職員1名中6名が管理者研修の終了者であり、うち2名が認知症実践者リーダー研修も修了しています。職員の離職率が低く入居者様と職員との馴染みの関係が築かれています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175100288-00&amp;Se">mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175100288-00&amp;Se</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

紋別市内のグループホームはそれぞれの運営推進会議に参加しており、情報を共有して事業所の介護実践に役立っています。更にケアマネ連協と地域包括支援センター共催で地域ケア会議を開催し、その中で行政の集団指導を受けておりの確かな理解と実践に努めています。グループホームライフインなごみは、開設17年目にあたり開設時からの法人理念「信頼と思いやりの心」「共に豊かに生きる」「あなたのお役に立ちたい」の実現に向けて取り組んでいます。更に、介護理念「あたたかい手を差しのべる仲間、ともに笑い、悩み、感動できる家族、いつもそこに温もりがある」を職員一人ひとりの目指すべき道として利用者家族、地域と協力しています。現在の新型コロナウイルス感染症の影響で地域との交流が中断され利用者の生活は閉塞されたものになってしまっていますが、その中にあっても気分転換の図る方法としての日常の楽しい食事時間や散歩、ドライブを多く取り入れています。勤続年数の長い職員が多く、利用者の思いや希望を把握し何が喜ばれるかを考えて共有し介護提供に努めています。また、コロナ禍で家族との面会が制限された状況ですが、エントランスや事務室等で感染対策を取りながら出来る限り面会出来るように支援を行っています。さらに毎月写真を多用したなごみ通信を発行すると共に、担当職員からのお便りを添えて毎月の様子をお知らせし家族の不安に配慮して信頼関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは理念を確認し、ケアに繋がれるように話し合っています。	開設時に法人代表者により作成された基本理念と職員により作成された介護理念を共に事務室、玄関に掲示している他パンフレット、重要事項説明書に掲載し、各ユニット会議には管理者により説明し介護の実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや敬老会、町内会の野遊会、各種演芸会の観覧(コンサート・大正琴・)、ドライブ等、外出に心がけていましたが、コロナウイルス感染予防のため、全て実施されていません。	新型コロナウイルス感染症流行以前は町内会行事への参加やボランティアの訪問があり日常的に交流していましたが、現在は受診やドライブが唯一の接点となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防のため、外部との交流はできていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議は開催しておりません。運営推進会議委員及びご家族へは偶数月に活動状況を書面にて郵送しております。	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響で今年度は2か月毎にすべて書面で行っています。2か月間の活動状況、職員動向、入居者状況、ヒヤリハット・事故報告、身体拘束適正化関係他、研修、会議状況等細かく報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染予防のため電話やメールでの情報交換に努めてきました。	市担当者、地域包括とは運営推進会議の時に情報を得ていましたが、現在は電話、メールで行い協力関係を築いています。毎年ケアマネ連協と地域包括支援センターと共催で研修会を開催し市の担当者からの情報を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにて身体拘束をしないケアについて話し合い、日中はもとより深夜においても、物色行為や歩き続ける事に対しても、抑制せず安全を確保する事に努めていますが、脳梗塞後麻痺のため転倒を繰り返す方については、御家族と相談し車イスにシートベルトを装着しています。	身体拘束廃止に向けては適正化のための指針を作成し職員全員が委員となっています。毎月のユニット会議の中で指針の説明や日常等業務の中での介護についての検討を行っています。行動抑制になっている車いすのベルトについてもカンファレンスで検討し解除に繋がる様に検討を行っています。	適正化委員会や検討会議、研修を行った際の記録の整備を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体のアザなどはいつ何処でできたものかを、すべての職員が把握するようヒヤリ・ハットの記入、ミーティングで話し合いで確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、成年後見制度の研修会に参加していましたが、今年度は地域での研修会が開催されず知識を高めることはできていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナウイルス感染症予防のため、ご家族との契約の締結は、短時間でお願ひし、ご本人は同席しておりません。疑問点等はいつでも問い合わせして頂き説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症予防のため、面会の方法も地域の感染者数の状況を見ながら行っています。ご家族様の要望を反映させられる状況には至っておりません。	利用者の意見、要望は毎日の会話の中で把握し反映しています。家族の要望、意見が出された時は職員全員で話し合い共有し運営や介護に反映できるように取り組んでいます。日常の様子は毎月の通信や担当者からのお便りで知らせています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎、月1～2回のミーティング。管理者と職員との個人面談。日常的に、職員の意見を取り入れ運営に反映させています。	職員の意見や提案は業務の中や毎月のユニット会議で把握しており、特に必要な時は管理者が全員の個人面談を行い介護に活かしています。グループラインを利用しての情報共有にも取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は給与や手当、見直し等を実施し雇用の改善を図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症予防の観点から、市外での研修会参加はすべて取りやめとしました。職場内においても、職員同士の接触をなるべく減らしているため、オンライン研修のみとなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症予防のため、オンラインでの交流のみとなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報やご本人の要望をケアに繋がられるよう、その日の職員が気付いた事を全員で共有できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なごみの基本理念やここがどうゆう所かを説明しご家族の不安な気持ちが和らぐよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をお聞きし、ご家族の気持ちとご本人の気持ちを優先し必要と思われるサービス事業所の紹介をしております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、食器洗い、洗濯物の片づけ等、できる事を一緒に行い必ずお礼の言葉を述べて感謝の気持ちが伝わるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や精神状態の変化等がある時は御家族と連絡を密にし今後の対応を検討したり、通院に対応して頂いたりしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症予防のため、今までのようにはできませんでしたが、馴染みの美容室・理容室と関係が途切れないよう努めております。	馴染みの美容室への訪問や商店への買い物は現在は新型コロナウイルス感染症の影響で行っていません。グループホームの携帯電話が、各ユニットに設置しており友人との会話をしている利用者もあり関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って会話を取り持ったり、その方に合ったゲームで対応しております。気の合う方同士で居室訪問もしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはなごみとの関係はこれからも続いて行く旨を必ずお伝えしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日の生活に満足して頂いているかを考え、何気ない言葉や、表情から何か変だと感じた時には、リーダーに報告し解決に向けたケアを提供しています。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望は、日常の会話の中で把握するように努めており、生活記録に記載して職員で共有し意向に添えるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント情報はもとより、入居後に面会に来てくださる、親戚や友人の方からも情報を頂き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や気分にも十分配慮し、穏やかに過ごせるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1～2回のミーティングでのケース検討や面会時にご家族の要望をお聞きし作成しています。	介護計画は変化のない時は長期目標で1年、短期目標で6か月の期間で利用者、家族の参加を得たサービス担当者会議を開催しています。毎月のカンファレンスで一人ひとりの様子を確認しケアマネがモニタリングを行っています。生活の様子は会話や行動を詳細に記載し見直しに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時には個別介護記録を読み、今の現状を把握しケアにあたっている。また急な対応が必要と感じた時は職員同士が電話にて検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時や退去時のお手伝いや、荷物の保管。市役所の手続きの介助。その他ご家族の方が困っている事を解決できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内回覧板や紋別市広報等からの情報をもとに、博物館・図書館・公園・等へ出かけ楽しんで頂けるよう支援しておりましたが、感染症予防のため、公園へのドライブ等、他者に合わないよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居前からの医療機関を継続しています。状況に応じてご家族やご本人と相談し医療機関を変え健康が維持できるよう努めています。	従来からのかかりつけ医を基本に、市内へは主に管理者が対応して受診しています。毎週各ユニットでは、訪問看護師により健康管理が行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師さんが訪問までの1週間の出来事を記録にて報告し、急病や軽いけが等は電話にて指導して頂き、後日受診しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必ず情報提供を作成し、渡しています。1日も早く退院できるよう医師にもお願いしております。病院からの急な退院の要望にも対応しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態の変化にあわせご家族や主治医との情報交換を密に行い、今できる最前の支援に取り組んでおりますが、地域医療が整っていないため看取りには至っておりません。	重度化した場合や終末期の対応は、入居時に「医療連携、重度化に関する指針」で説明し出来るだけの対応を行う旨説明しています。医療機関の体制が整わず看取り迄は行っていませんが家族の意向を出来るだけ尊重するよう心掛けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練を定期的に行ってはいませんが日常の変化や急変等をミーティングで話し合っ対応できるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルス感染症予防のため、2年間地域との協力体制の確認はできていない。火災避難訓練を1回と通報訓練を1回行っているが、災害時の避難訓練は行っていません。	災害対策は毎年2回、日中、夜間想定での火災の避難訓練を行っています。現在消防署の立ち合いはコロナ禍で行われていませんが、防災業者の点検に合わせて訓練を行い指導を得ています。	コロナ禍の終息を待たれますが、近隣住民の協力体制構築と、その他の災害対策、介護場面を想定しての対応マニュアル整備を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろより言葉づかいには注意し、丁寧語を使い尊敬の気持ちが伝わるよう支援しています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し誇りを損ねない言葉遣いや対応が出来るように新規採用時には接遇基準を記した冊子「なごみの心」を配布して理解を得て日常的に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や好みを把握し、自己選択しやすい方法で問いかけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な外出の要望にも対応できるよう、その時のスタッフで話し合い対応しています。どうしても無理な時は事務所や他ユニットの協力を得て希望に添えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を準備したり、今日、着たい服を選んで頂いたりしています。お化粧品に時間がかかる事を配慮して声掛けをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけは毎日の日課となっていますが、体調やその日の気分に配慮し、休んでいただくこともあります。毎週土曜日にはメニューを決めず旬の食材や食べたい物を提供しています。器でも楽しめるように工夫しています。	献立は従来の3週間メニューを基本とし、行事や誕生日には特別な料理で楽しめるように支援しています。特に季節の物が提供できるようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みを把握してはいますが、何が飲みたいか確認し提供しています。口渇感のない方にはその日の状態で提供するタイミング等を考えながら支援しております。体重や血液検査の結果等、健康状態は配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に洗面所へお誘いし口腔ケアを促しますが、応じて頂けない事もあります。寝たきりの方には毎食後、歯磨きシートにてケアしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は一人一人の排泄パターンをほぼ理解しており、快適に過ごせるよう支援しています。短時間でも立位保持が可能な方はトイレにて排泄しております。	一人ひとりの排泄記録をつけ、パターンや習慣を把握し動作に注意して様子を見ながら快適に過ごせるように排泄支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄サイクルを検討し、その日の体調や食欲などに注意し、不要な下剤を使用しないようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決めています、その日の気分や要望により変更をしています。	基本的には週2回の入浴支援を行っていますが、その日の状況、状態を考慮しています。日曜日以外はお湯を入れており、対応が出来るようにしています。同性介助のシフトを組めるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状態により自由に休息場所を変更して頂いております。リビングでの安眠を希望される方にはソファや毛布を準備し快適に過ごせるように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録に副作用や用法が記載されており共通認識で確認しています。薬の変更があった時は特に状態の変化が無いか注意し、その内容が共通認識できるよう申し送りしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	催し物や地域のイベントへの参加等ができない状況であり、毎日のゲーム・ドライブ等、楽しい時間が増やせるよう支援しています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防を重視しているため、地域との交流はできません。ご家族との面会も15分以内と制限しており、外出はできない状況です。地域の感染者数がゼロの時は、ご家族と散歩を楽しんでいただいております。	現在、外出は極力行なっておりませんが、気分転換や気持ちが落ち着くようにドライブを行っています。家族との面会は制限していますが、受診時の同伴で会話できるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、希望されている方には所持して頂いておりますが、お金を使う場所への外出ができないため使用することはありません。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由であり、希望した時は職員がダイヤルし手渡しています。携帯電話を所持している方の管理も行っています。便箋を準備し手紙の支援をしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年中、居間に観葉植物を飾り。春夏秋冬にはリビングに生花。(近所で花摘みをしたり)夏には風鈴。其々で作成した工作を飾ったりしています。BGMには昭和の曲をかけて懐かしんでいます。	嘗ての大学生マンションの3、4階を使用したグループホームであり見晴らしや日当たりの良いリビングとなっています。観葉植物や玄関には花を装飾したり、写真を掲示し楽しく寛げるように工夫しています。各ユニットには携帯電話を設置しており家族や知人との交流に使用しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が入り替わる時はソファの配置を変えたりリビングのレイアウトを変えたり全員が仲良く過ごせるよう工夫しています。リビングからみえない廊下にも椅子が設置されています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や趣味の物を自由に持ち込んで頂き、満足できる空間になるようアドバイスをしています。物が多く居心地が悪くなった時には保管場所の提供もしています。	嘗ての利用者の使用していた家具が多くあり、自宅からの持ち込み家具と併用して使用しています。家族の写真や絵を飾り居心地よく生活できるように工夫しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に応じ案内板をつけたり、表示を変更したりしています。		